

みやぎスーパーバンドとは？

宮城県内の教職員を中心に演奏経験豊富なメンバーにより 1994 年に発足。林紀人氏の指導のもと、3 度の演奏会を開催し、大成功を収めました。その後、第 16 回演奏会までに、故 A. リード氏、真島俊夫氏、加養浩幸氏、佐川聖二氏、保科洋氏、再び林紀人氏と、国内外の一流音楽家の指導を受けながら、熱心に研修に励み、意欲的な活動を展開しました。第 17 回演奏会では宮城県吹奏楽連盟、仙台フィルハーモニー管弦楽団、そして山下一史氏の三者の話合いから、宮城県内の指導者のために行われた指揮法講習会を受講した中から 4 名がその成果発表の場として立派な演奏をし、さらに山下一史氏の指揮の下で「アルメニアン・ダンス・パート I」を演奏するなど、新たな形式での演奏会を行いました。第 18 回演奏会には再び林紀人氏をお迎えし、東日本大震災に関わる楽曲を中心に宮城に元気を与えられるステージを目指して活動を展開しました。2013 年度は、本吉地区を訪問し、地元の中高生を対象とした楽器別講習会を開催し、第 19 回演奏会では講習会に参加した中高生と一緒に合同演奏を行うなど、宮城県内の吹奏楽活動に貢献しようと活動の幅を広げています。一昨年度の第 20 回記念演奏会では林紀人氏をお迎えするとともに、みやぎスーパーバンドのこれまでの活動に深く関わった方々に指揮者として出演していただくなど盛大に開催しました。昨年度は小塚類氏をお迎えし、故岩井直溥氏の作品を中心に演奏会を開催しました。

また、2004 年 5 月には日本吹奏楽指導者クリニック「ネムバンドクリニック」（主催：日本バンドクリニック委員会）のモデルバンドとして出演し、好評を博しました。

演奏会以外にも、合奏研修会などを企画して指導者の自主的研修と交流を行ったり、課題曲講習会や東北指導者講習会のモデルバンドの活動をしています。平成 22 年度からは将来の指導者を育成するために、教員を目指す大学生も準会員としてメンバーに加え、宮城県の吹奏楽の発展に寄与しようとしています。